市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-4	バス停上屋整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ 人にやさしい交通手段の確保
担当部課名	建設管理部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光都市としてのグレードアップを図るため、観光客等が沖縄の強烈な日差しや風雨を避け快適に公共交通機関を利用してもらえるよう、バス停上屋を整備する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	－	86,700	－	56,350	－
	(b) 予算現額	－	86,700	－	56,350	－
	(c) 増減額 (b-a)	－	0	－	0	－
	(d) 繰越額	87,133	－	76,292	－	43,252
	A. 計 (b+d)	87,133	86,700	76,292	56,350	43,252
	B. 執行済額	86,807	10,408	74,364	13,098	34,365
	うち交付金充当額	69,447	8,326	59,492	10,478	27,492
次年度繰越額		－	76,292	－	43,252	－
執行率（%）(B/A)		99.6%	12.0%	97.5%	23.2%	79.5%
予算の状況の説明		・関係機関との調整に時間を要したことから、27年度の執行23.2%にとどまった。 ・繰越額については、計画していた上屋設置工事にて執行した。27年度及び27年度繰越事業を合わせて47,463千円の執行となり、事業費56,350千円に対し84.2%の執行率となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
バス停上屋の設置：12基	目　標	（　5基　）	（　13基　）	（　13基　）	（　12基　）
	実　績	5基	7基	8基	4基
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：関係機関との調整が整ったバス停4基（おもろまち4丁目（上）、田原（下）、真嘉比東(上・下)）のみの設置となった。理由としては、バス停上屋設置箇所の背後地権者の同意を得ることができなかったことによる。次年度以降の工事でバス停上屋の設置を行う。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
バス停上屋設置率：90%（45/50基）	目　標	（　）	（　13基　）	（　13基　）	（　90%　）	（　）
	実　績		7基	8基	48%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：関係機関との調整が整ったバス停4基（おもろまち4丁目（上）、田原（下）、真嘉比東(上・下)）のみの設置となった。理由としては、バス停上屋設置箇所の背後地権者の同意を得ることができなかったことによる。しかし、着実にバス停上屋の設置が進んでいることから、快適な公共交通機関の利用環境が整えられてきている。

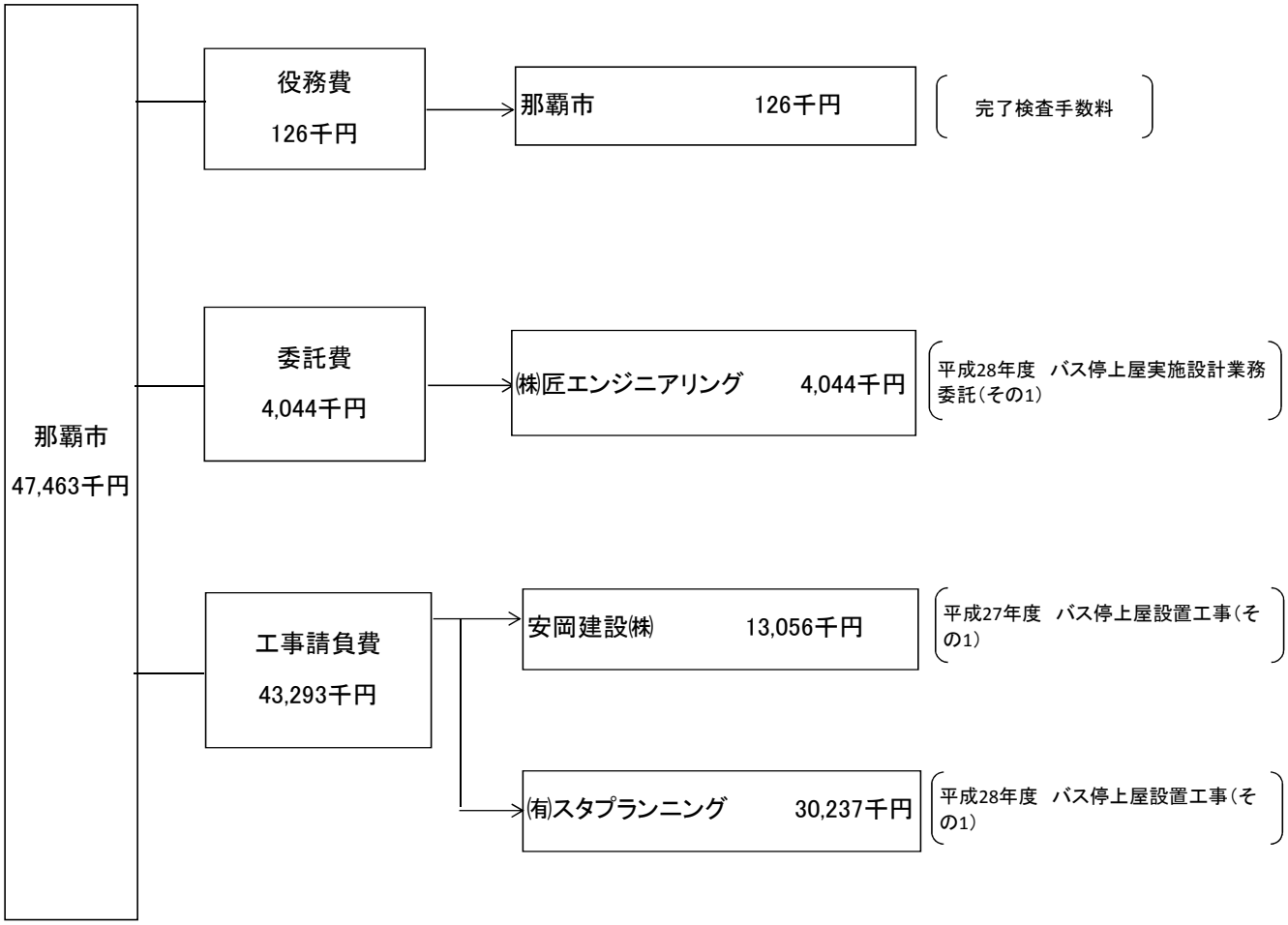
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・バス停上屋の設置には、設置箇所の背後地権者の同意を得ることが必要であるが、思うように同意を得られないことがある。そのため、地権者の同意を円滑にいただくことが推進上の留意点と考えている。	・当該権利者との調整を進める中で、本市の交通政策への取り組みや、本事業に対する必要性を粘り強く説明し、理解をしっかりと得ることでバス停上屋の設置を実現する。

今後の取り組み方針

・当該権利者を含めた関係者との調整を密に実施し、本事業の適切な進捗管理を図る。
・沖縄の強烈な日差しや風雨を避け、快適に公共交通機関を利用する観光客や市民のために、バス停上屋の整備は必要である。
　これまで、バス停上屋背後地権利者の理解を得ることに時間を要し、進捗が遅れていたが、H28年度からは事前に地権者の同意を取り付けることで計画通りバス停の上屋が設置できた。今後もH28年度同様、円滑な事業の推進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
47,463	47,463	37,970	9,493	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料・工事請負費の執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-5	交流オアシス整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設管理部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光都市としてのグレードアップを図るため、公有地及び道路残地等を活用した小広場、オープンスペース（交流スペース）の整備を行い、観光客と市民との交流・憩いの場を創出する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	－	136,620	－	118,000	－
	(b) 予算現額	－	136,620	－	118,000	－
	(c) 増減額 (b-a)	－	0	－	0	－
	(d) 繰越額	80,827	－	109,072	－	115,948
	A. 計 (b+d)	80,827	136,620	109,072	118,000	115,948
B. 執行済額		80,827	27,427	90,160	2,052	84,087
うち交付金充当額		64,662	21,941	72,128	1,641	67,269
次年度繰越額		－	109,072	－	115,948	－
執行率（%）（B/A）		100.0%	20.1%	82.7%	1.7%	72.5%
予算の状況の説明		・整備候補地の権利者との調整に不測の日数を要したことから、年度内での事業完了が困難となり繰越すこととなった。 ・繰越額については、交流スペースとして土地購入を目指していたが、地権者の理解を得ることができず、購入に至らなかったため不用が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
交流オアシス基本計画策定	目　標	（　策定　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	策定の実施			
交流スペースの設置：6箇所	目　標	（　）	（　6箇所　）	（　6箇所　）	（　6箇所　）
	実　績		土地購入（5件）	設置（2箇所） 土地購入（3件）	設置（2箇所） 土地購入（1件）

達成状況説明

平成27年度は工事箇所と土地購入箇所を合わせて6箇所を予定していた。当該事業を進める上で、整備箇所の大半が土地購入を伴うため、地権者の理解が得られない限り実施設計および工事ができない。

設置した2箇所については、前年度に土地購入を終え、設計が完了したことから、工事を実施し、完了した。土地購入については、地権者の理解が得られた箇所が1箇所に留まり、結果的に工事箇所と合わせ合計3箇所の達成状況となっている。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
交流スペース設置率：29%（6/21箇所）	目　標	（　）	（　6箇所　）	（　6箇所　）	（　29%　6箇所　）	（　）
	実　績		土地購入（5件）	設置（2箇所） 土地購入（3件）	（19%） 設置（2箇所） 土地購入（1件）	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

平成27年度は2箇所の設置にとどまり、土地購入においては1件にとどまった。地権者から土地の購入について明確に断られたことが理由となっている。しかし、今後は設計・工事を中心に行っていくことから、進捗状況についても改善していくものと考えている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・購入の目処がついた土地については取得を優先して行うことで、後年度の実施設計及び整備工事を計画的に実施することができる。いかに地権者の理解・協力を得られるかが推進上の留意点である。	・平成27年度は、計画していた購入予定地において、地権者から明確に断られたことから、次年度は、購入の判断を早期に行い、設計・工事を計画的に取り組んでいくことが円滑な事業推進につながるものと考えている。

今後の取り組み方針

・権利者等との調整を密に実施し、本事業の適切な進捗管理を図る。
・適宜、実施設計及び整備工事を実施し、観光客と市民との交流及び憩いの場づくりが確保できるよう努める。
・有効活用されていない道路残地等を観光客と市民のために交流・憩いの場として整備することはとても必要である。
・これまで、地権者の理解を得るために、粘り強く事業の説明を行い、同意を取り付けた箇所は全て購入できた。今後は、購入可能性の低い土地の購入は断念し、主に設計・工事を推し進め、円滑な事業の推進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
86,139	86,139	68,910	17,229	0

- 那覇市 86,139千円
  - 役務費 173千円
    - ㈱沖縄地所鑑定 86千円（平成28年度　交流オアシス整備事業の土地評価に関する意見書（その1の1））
    - ㈱あおい不動産研究所 87千円（平成28年度　交流オアシス整備事業の土地評価に関する意見書（その1の2））
  - 委託料 10,425千円
    - （公社）沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会 410千円（平成28年度　久米若狭線用地測量業務委託）
    - ㈱トロピカル・グリーン設計 2,052千円（平成27年度　交流オアシス設計業務）
    - ㈲アーバンエンジニアリング 7,963千円（平成28年度　交流オアシス設計業務委託（その1））
  - 工事請負費 48,900千円
    - ㈱サンライト 28,994千円（平成28年度　交流オアシス整備工事（その1））
    - ㈲沖匠興業 19,906千円（平成28年度　交流オアシス整備工事（その2））
  - 土地購入費 26,641千円
    - 個人1名 26,641千円（交流オアシス整備事業に必要な用地）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-6	歴史散歩道整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設管理部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成24～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、歴史的な由来のある散歩道を調査選定し、路面改良、道路緑化・美化を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	－	224,607	－	194,840	－
	(b) 予算現額	－	204,273	－	194,840	－
	(c) 増減額 (b-a)	－	▲ 20,334	－	0	－
	(d) 繰越額	204,448	－	200,237	－	149,092
	A. 計 (b+d)	204,448	204,273	200,237	194,840	149,092
	B. 執行済額	177,021	4,007	175,455	45,748	147,072
	うち交付金充当額	141,617	3,206	140,363	36,598	117,657
次年度繰越額		－	200,237	－	149,092	－
執行率（%）(B/A)		86.6%	2.0%	87.6%	23.5%	98.6%
予算の状況の説明		・整備工事については、地域住民や地元自治会との調整により繰越をしての執行となったが、繰越年度内で執行を終えることができ、整備を完了させられた。予算については繰り越したもののほぼ執行することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
歴史散歩道設置：2地区	目　標	（　4地区　）	（　4地区　）	（　2地区　）	（　2地区　）
	実　績	4地区	4地区	2地区	2地区
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：観光客の多い首里地区と、歴史的由来のある真珠道周辺の上間地区において、歴史散歩道に相応しい整備として、石張舗装やカラー舗装等を行い、快適な歩行空間の確保が図られ目標は達成となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
歴史散歩道設置率：60%（5,560/9,760m）	目　標	（　）	（　4地区　）	（　2地区　）	（　60%　）	（　）
	実　績		4地区	2地区	37% 2地区750m	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：観光客の多い首里地区と、歴史的由来のある真珠道周辺の上間地区において、歴史散歩道に相応しい整備として、石張舗装やカラー舗装等を行い、快適な歩行空間の確保が図られたが、当地区の予定路線において、地域の方々との調整に不測の期間を要し、着手に至らなかったことから、目標に達しなかった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・整備路線の実施設計において、地域の方々（自治会等）との意見交換等、関係機関との調整に不測の時間を要する。 ・歴史散歩道には、個々の歴史を感じてもらうために案内板等を設けた休憩スペース（ポケットパーク）を設置する必要がある場合があり、そのための用地購入が必要となる場合がある。 ・土地購入に当たり、権利者との調整に不測の時間を要する。	・自治会等、地域の方々との意見交換は必要であり、意見交換会の進め方等、創意工夫を行い事業の進捗向上を図る。 ・土地の購入にあたっては、本事業の目的等をしっかりと説明し、粘り強く権利者との調整にあたり、用地の確保に努める。

今後の取り組み方針

・自治会等、関係者との調整を早期に行い、本事業の適切な進捗管理を図る。
・必要な用地については、権利者との調整を粘り強く行い、用地の確保を図る。
・完成した路線については、ホームページ等による案内を行い、散歩道の利用促進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
192,820	192,820	154,255	38,565	0

那覇市 192,820千円

- **手数料 952千円**
  - BAN鑑定所 234千円
  - 大城不動産鑑定事務所 286千円
    （平成27年度　歴史散歩道整備事業に伴う土地鑑定評価業務の契約について（その1の1、2））
  - BAN鑑定所 86千円
  - 大城不動産鑑定事務所 86千円
    （平成28年度　歴史散歩道整備事業の土地評価に関する意見書（その1の1、2））
  - ㈱琉球総合鑑定 130千円
  - ㈲田村総合鑑定事務所 130千円
    （平成28年度　歴史散歩道整備事業の土地評価に関する意見書（その2の1、2））
- **委託費 21,778千円**
  - （公社）沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会 734千
    （平成28年度　赤平当蔵線分筆測量業務委託）
  - （公社）沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会 44千
    （平成28年度　識名繁多川用地測量業務委託）
  - ㈱沖橋エンジニアリング 270千円
    （平成26年度　歴史散歩道実施設計業務委託（その2））
  - ㈱あすもり建設ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ 378千円
    （平成26年度　歴史散歩道実施設計業務委託（その3））
  - ㈱与那嶺測量設計 5,076千円
    （平成27年度　歴史散歩道実施設計業務委託（その1））
  - ㈱沖縄プランニング 7,312千円
    （平成28年度　歴史散歩道実施設計業務委託（その1））
  - ㈱環境技研ウェーブ 7,964千円
    （平成28年度　歴史散歩道実施設計業務委託（その2））
- **工事請負費 153,741千円**
  - ㈱野原建設 53,325千円
    （平成27年度　赤田北線外1路線歴史散歩道整備工事）
  - 金秀建設㈱ 47,356千円
    （平成27年度　歴史散歩道整備工事（上間地内））
  - ㈲太建開發 26,254千円
    （平成28年度　崎山4号歴史散歩道整備工事）
  - ㈱RPM 26,806千円
    （平成28年度　赤平当蔵線歴史散歩道整備工事）
- **土地購入費 16,349千円**
  - 個人3名 16,349千円
    （歴史散歩道整備事業に必要な用地購入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-28	首里金城町無電柱化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設管理部　道路建設課	事業実施（予定）年度	平成25～31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

王朝時代の佇まいを今に伝える貴重な首里金城町において、当該地域の石畳や石垣などの魅力を高め、更なる観光客等の誘客を図るため、当該地域の無電柱化を実施していく。平成27年度は無電柱化の実現に必要な用地の取得（地上機器設置箇所等）を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	－	59,459	－	59,450	－
	(b) 予算現額	－	10,500	－	7,000	－
	(c) 増減額 (b-a)	－	▲ 48,959	－	▲ 52,450	－
	(d) 繰越額	3,500	－	6,773	－	6,904
	A. 計 (b+d)	3,500	10,500	6,773	7,000	6,904
B. 執行済額		3,500	3,727	0	96	488
うち交付金充当額		2,800	2,981	0	76	390
次年度繰越額		－	6,773	－	6,904	－
執行率（%）(B/A)		100.0%	35.5%	0.0%	1.4%	7.1%

予算の状況の説明

年度当初において詳細設計や移設補償費の経費を含めて計上していたところ、地上機器設置予定箇所の土地所有者の内諾が得られなかったため取組の縮小を図ることとし、52,450千円の予算減額を行い、詳細設計と用地費等の一部を実施するために6,904千円を繰り越した。その後地上機器設置予定箇所の内諾が一部得られたことから詳細設計を実施したが、その他の購入予定地は、内諾が得られなかったため、繰越予算を執行することが出来なかった。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
実施設計 1工区：金城東西線　外4路線 （延長478m）	目　標	（　実施設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施設計			
電線類等移設費補償：2路線	目　標	（　）	（　2路線　）	（　2路線　）	（　）
	実　績		0路線	0路線	
配線計画図の作成に係る用地取得	目　標	（　）	（　）	（　用地取得　）	（　）
	実　績			未取得	

達成状況説明

地上機器設置箇所の土地所有者の内諾が一部得られたことにより詳細設計を実施したが、その他の購入予定地の内諾が得られなかったことから、その後に実施予定だった配線計画(詳細)に係る補償を執行することが出来ず、活動目標は未達成となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
実施設計 1工区：金城東西線　外4路線 （延長478m）	目　標	（　）	（　実施設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施設計			
電線類等無電柱化率：20%（370/1,850m）	目　標	（　）	（　）	（　2路線　）	（　20%　）	（　）
	実　績			0路線	0%	
配線計画図の作成に係る用地取得	目　標	（　）	（　）	（　）	（　用地取得）	（　）
	実　績				未取得	

進捗状況説明

当初目標としていた電線類等無電柱化率について、地上機器設置箇所の土地所有者の内諾が得られなかったことにより、その後に予定していた詳細設計等が出来ず、電線類等の移設を実施することが出来なかった。

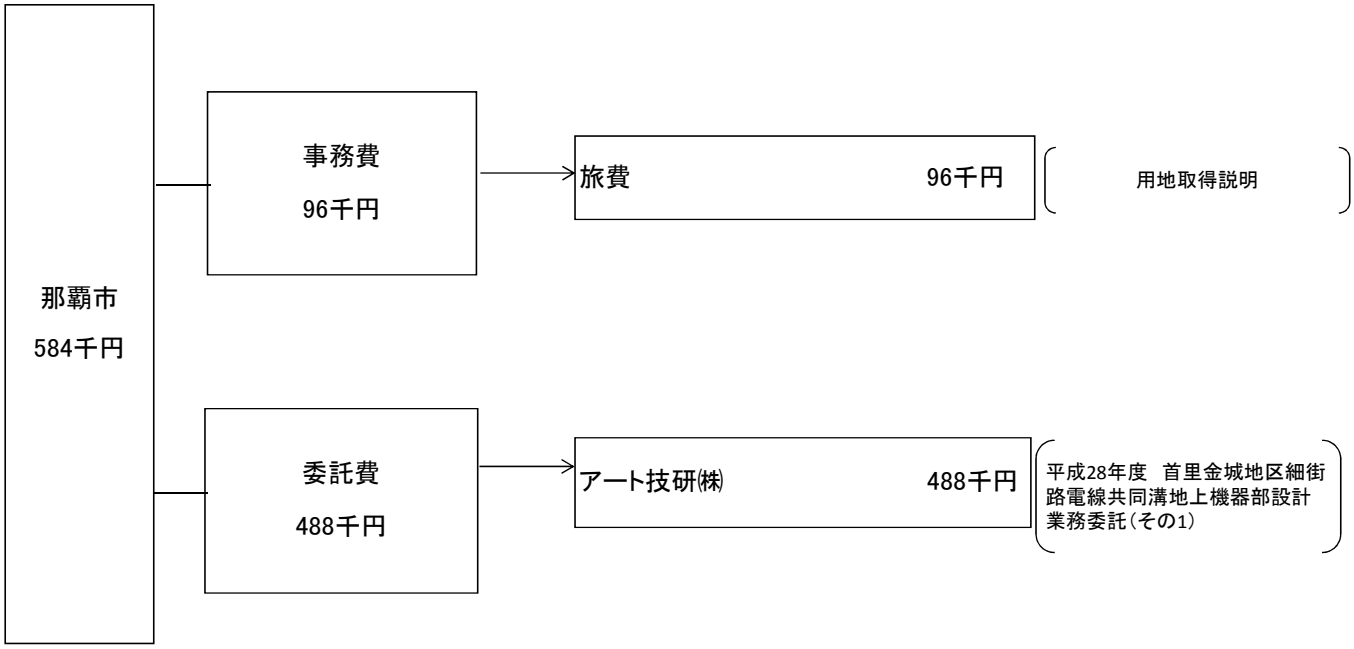
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・電線類を地中化するための特殊部の設置位置について、当該地域が傾斜地であることや狭隘道路に囲まれていることなどから、制約が多く設置場所が限られてくること。 ・地上機器を設置するために、必要な民有地を購入する必要があるが、道路沿いの土地を購入することや土地の形状がいびつになることなどから、土地所有者から理解が得られず、詳細設計が進まない状況がある。	・土地所有者の要望等に考慮した、地上機器設置位置や形状、配線計画詳細を検討する必要がある。 ・無電柱化の重要性について、自治会等にも協力して頂き、理解を得る必要がある。 ・地上機器設置の用地購入が困難な箇所は、ソフト地中化等の検討も必要である。

今後の取り組み方針

これまでの取り組みで検討していた設置予定箇所について、配線計画を見直し地上機器の設置位置や規模を見直す形で設置箇所を集約化し、用地を取得する箇所を減らすことで、地上機器設置予定箇所の一部の土地所有者へ理解を頂けた箇所もあるため、今後は用地購入が困難な箇所は、ソフト地中化も含め検討しながら、当該地区の景観の向上及び安全で快適な通行空間確保に取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
584	584	466	118	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、地方自治法施行令167条の2項第1項第1号に基づく随意契約で選定を行ったため、妥当であった。 ○委託料の執行については妥当であったと考えている。 ○当初予算規模については、計画の見込不足から不用額等を出す結果となったため、今後の執行計画を見直す必要がある。 ○費目・使途については、事業目的の観点から予算執行及び完了検査等において確認しており、適正であったと考える。
	×	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-29	歴史散歩道関連整備事業（下水道マンホール等設置）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	上下水道部　下水道課	事業実施（予定）年度	平成25～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、歴史的な由来のある散歩道を調査選定し、路面改良、道路緑化・美化を行う「歴史散歩道整備事業」と一体的に、景観等に配慮した下水道マンホール等の設置を行う。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)
予算の状況	(a) 当初予算額	41,000	57,000	－	19,000	－
	(b) 予算現額	41,000	57,000	－	16,840	－
	(c) 増減額(b-a)	0	0	－	▲ 2,160	－
	(d) 繰越額	－	－	42,445	-	16,840
	A. 計(b+d)	41,000	57,000	42,445	16,840	16,840
	B. 執行済額	41,000	14,555	41,504	0	12,517
	うち交付金充当額	32,800	11,644	33,203	0	10,013
次年度繰越額		-	42,445	－	16,840	－
執行率（%）(B/A)		100.0%	25.5%	97.8%	0.0%	74.3%

予算の状況の説明

道路整備事業において地域住民との調整に時間を要したことにより、繰越が必要となったたため、当該事業も道路整備と進捗を合わせる必要があることから、平成28年度へ16,840千円を減額補正のうえ繰り越しての執行となった。不用額については、入札残及び道路事業の施工範囲に合わせたことによる不用である。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
下水道マンホール蓋等の設置	目　標	（165箇所）	（227箇所）	（　）	（　）
	実　績	194箇所	240箇所		
H27計画路線延長：2.0km	目　標	（　）	（　）	（2.0km）	（　）
	実　績			2.0km	

達成状況説明

歴史散歩道公共下水道工事を1件発注し、赤平当蔵線、赤田崎山線にデザインマンホール蓋設置等を施工した。
また、平成27年度より、歴史散歩道整備事業との整合性を図るため、活動目標値を路線延長で管理することとした。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
下水道マンホール蓋等の設置	目　標	（　）	（165箇所）	（227箇所）	（　）	（　）
	実　績		194箇所	240箇所		
整備率80%（H27累計延長5.4km÷H29計画総延長6.7km）	目　標	（　）	（　）	（　）	（80%）	（　）
	実　績				80%	

進捗状況説明

・平成27年度より、進捗状況を把握しやすくするため、成果目標を整備率により管理することとした。
・平成25年度から平成27年度にかけて歴史散歩道公共下水道工事を12件発注し、壷屋地区や首里地区などにデザインマンホール蓋設置等を475箇所施工した。（平成27年度41箇所設置）
・歴史散歩道整備事業で施工予定箇所の見直しが行われ、デザインマンホール蓋設置に該当する箇所がないことから、平成27年度をもって本事業は完了となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本事業は道路建設課の歴史散歩道整備事業と一体的な施工が必要であるが、お互いの工程・進捗管理について、調整に時間を要してしまう状況であった。 ・平成27年度に設置した41箇所に加え、これまでに475箇所において景観等に配慮したデザインマンホール蓋等の施行を行った。	・道路整備事業と整合性のとれた進捗の把握・管理することで、お互いのスケジュール等詳細な把握に努める必要がある。 ・更なる活性化・利用促進のため、歴史散歩道事業の一環としてデザインに込めた意義について多くの人々への理解を図るべく、ホームページや広報誌などを通して広く市民にPRしていく必要があると思われる。

今後の取り組み方針

・本事業は年度を繰り越してのスタートであったが、いざ現場に着手する際に工程に遅れが生じないよう、道路整備事業側と現場着手前から事前調整を行い、また、互いの工程表を共有するなど随時調整を図ることで工事開始時から完了まで円滑に現場を収めることができた。

・今後においては、市の花「ブーゲンビレア」の持つ華やかさ、代表的な焼き物「シーサー」、伝統工芸「首里織・花笠」といった那覇の魅力を重要な都市機能である公共下水道の蓋のデザインとした取り組みについて、ホームページや広報誌などを通して広く市民にPRしていく。これら歴史的景観に配慮したデザインマンホール蓋をきっかけとして、歴史散歩道を訪れた観光客と地域住民との交流となることを期待するとともに、市民にとっても公共下水道という存在が重要かつ身近なものであるという認知度の向上を図ることで、下水道普及へもつながっていくよう努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,517	12,517	10,013	2,504	0

那覇市 12,517千円 → 工事請負費 12,517千円 → (合)東洋安全機材 12,517千円

（平成28年度歴史散歩道公共下水道工事 デザインマンホール蓋設置等 41箇所）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者の選定は、一般競争入札を実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、今年度の道路整備箇所に下水道マンホール蓋等の設置を必要かつ最小限での執行に抑え、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要かつ適正であり、支出等に関する手続き及び書類も適切に処理している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-36	第一牧志公設市場再整備推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（8）－イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興
担当部課名	経済観光部なはまちなか振興課	事業実施（予定）年度	平成26～31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	観光地としての魅力を高めるため、観光資源であるマチグヮーの良さを活かした地域観光に寄与する中核施設として、第一牧志公設市場の再整備を推進する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,195	9,963	―		
	(b) 予算現額	5,195	14,210	―		
	(c) 増減額 (b-a)	0	4,247	―		
	(d) 繰越額	―	－	12,183		
	A. 計 (b+d)	5,195	14,210	12,183		
	B. 執行済額	5,184	2,006	12,183		
	うち交付金充当額	4,147	1,604	9,746		
次年度繰越額		0	12,204	0		
執行率（%）（B/A）		99.8%	14.1%	100.0%		
予算の状況の説明		再整備手法については、基本構想の3案に加えて長寿命化工事案を追加することとし、4つの案で再検討することとして、市場事業者及び周辺事業者と意見交換を重ねてきた。長寿命化工事案を含めて十分な検討が必要なことから、事業を繰越して実効性の高い基本計画の策定を行った。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
市場事業者等の意見・要望等の再確認。	目　標	（市場事業者等の意見・要望等の再確認）	（　）	（　）	（　）
	実　績	市場事業者等の意見・要望等を再確認した。			
検討委員会の開催	目　標	（開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	5回			
・基本構想をベースに再整備に向けた具体的な内容を整理。 ・市場事業者や周辺事業者等への説明会や外部有識者会議等の開催。 ・基本計画の策定。	目　標	（　）	（内容の整理、各種説明、会議等催、計画策定の実施）	（　）	（　）
	実　績		内容の整理、各種説明、会議等催、計画策定の完了		

達成状況説明：学識経験者、市場組合及び周辺商店街組合役員を含む幅広い分野の委員からなる外部検討委員会の審議、市場事業者との意見交換、市民説明会、パブリックコメントを踏まえ再整備基本計画を策定した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
地域観光に寄与する施設として、市場再整備手法や再整備後の管理運営手法等について取りまとめる。	目　標	（　）	（取りまとめ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		基本構想の作成			
再整備後のビジョン（具体的整備方針）の明確化	目　標	（　）	（　）	（計画策定）	（　）	（　）
	実　績			計画策定		

進捗状況説明：この再整備基本計画を踏まえ、平成29年度は、基本設計等を実施する。

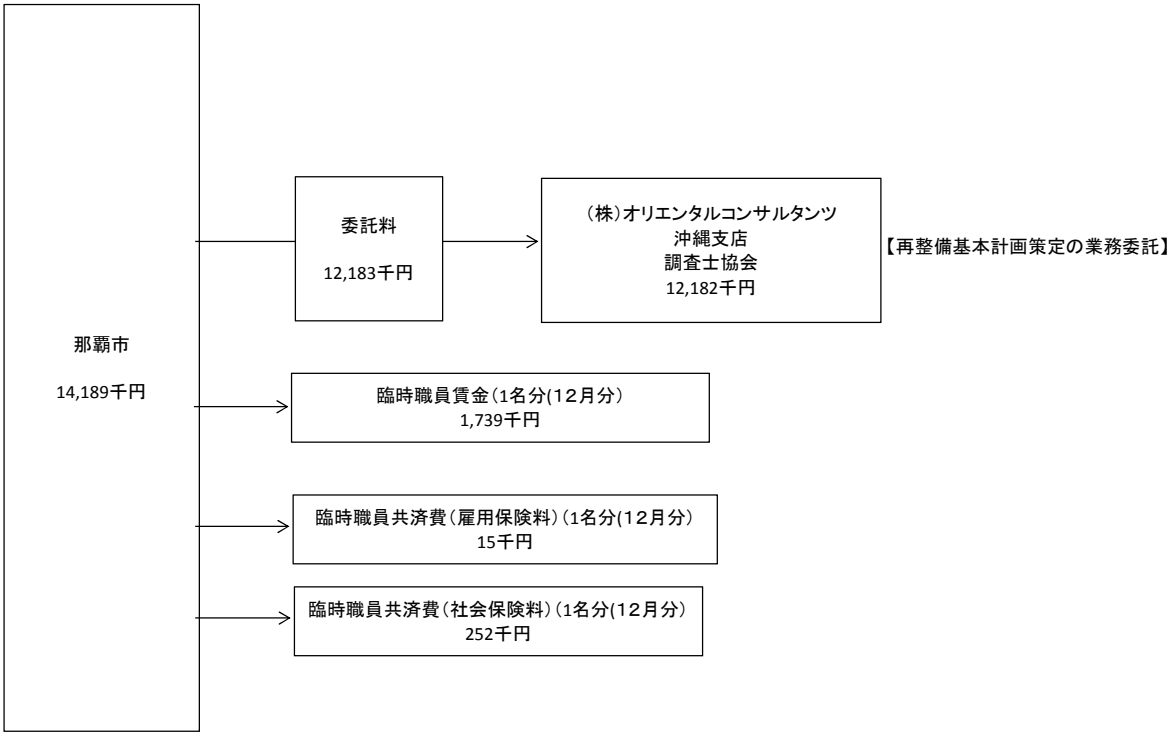
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	那覇市第一牧志公設市場再整備基本計画の策定にあたっては、学識経験者をはじめ、那覇市中心商店街連合会会長など、幅広い分野の委員からなる外部検討委員会を、計8回開催した。 また、市場事業者の対象に、部門（精肉・鮮魚・生鮮・外小間・食堂）毎に説明及び意見交換会を計20回開催した。平成29年度以降も部門毎に説明及び意見交換会を開催し、意見を確認しながら事業を進める必要がある。	平成28年度までは、市場事業者を中心に説明及び意見交換会を実施してきたが、平成29年度以降は、市場事業者に加えて、工事に影響がある周囲の事業者への説明及び意見交換会を実施する必要がある。

今後の取り組み方針

平成29年度に基本設計、平成30年度に実施設計、平成31年度から工事を開始し、平成34年度を目途に供用開始を予定している。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,189	14,189	11,351	2,839	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 業者見積りをもとに予算を積算し、適正な規模と考えている。 費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-1	那覇港総合物流センター整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(4)-ア 臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成
担当部課名	都市計画部　都市計画課	事業実施（予定）年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(3)

事業内容

本県の生活・産業物資の輸送の大部分を担う港湾物流機能を改善し、従来型物流の高度化を図り、さらに付加価値型ものづくり産業の集積などの国際物流拠点の形成を図るため那覇港総合物流センターを整備する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	―	33,930	―	453,900	―
	(b) 予算現額	―	33,930	―	453,900	―
	(c) 増減額 (b-a)	―	0	―	0	―
	(d) 繰越額	11,655	―	24,330	―	304,420
	A. 計 (b+d)	11,655	33,930	24,330	453,900	304,420
	B. 執行済額	11,655	9,600	24,247	149,480	304,420
	うち交付金充当額	9,324	7,680	19,397	119,584	243,536
次年度繰越額		-	24,330	-	304,420	-
執行率（%）(B/A)		100.0%	28.3%	99.7%	32.9%	100.0%

予算の状況の説明

・地盤改良の工法変更に伴い、構造計算等の再検討が必要になったことから、実施設計の完了に不測の日数を要したため繰越となった。
・平成27年度予算においては、予算額通り執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
総合物流センター基礎工事の着手	目　標	（ 基本設計の実施 ）	（ 実施設計の実施 ）	（ 基礎工事の着手 ）	（　）
	実　績	基本設計の実施	実施設計の実施	基礎工事の着手	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・活動目標通り総合物流センターの基礎工事を含む建築工事に着手した。
・引き続き、平成30年度の供用開始に向け鋭意取り組みを進める。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
地盤改良及びランプウェイ基礎工の完了	目　標	（　）	（ 基本設計業務の完了 ）	（ 実施設計業務の完了 ）	（ 基礎工事の完了 ）	（　）
	実　績		基本設計業務の完了	実施設計業務の実施	・実施設計業務の完了 ・基礎工事の完了	
【参考指標】沖縄21世紀ビジョン実施計画P162 那覇港の取扱貨物量	目　標	1,004万トン（23年）	1,950万トン（28年）	2,840万トン（33年）	（　）	（　）

進捗状況説明

地盤改良の工法変更に伴い、構造計算等の再検討に不測の時間を要したため工事の発注に遅れを生じたが、成果目標通り基礎工事を完了することができた。

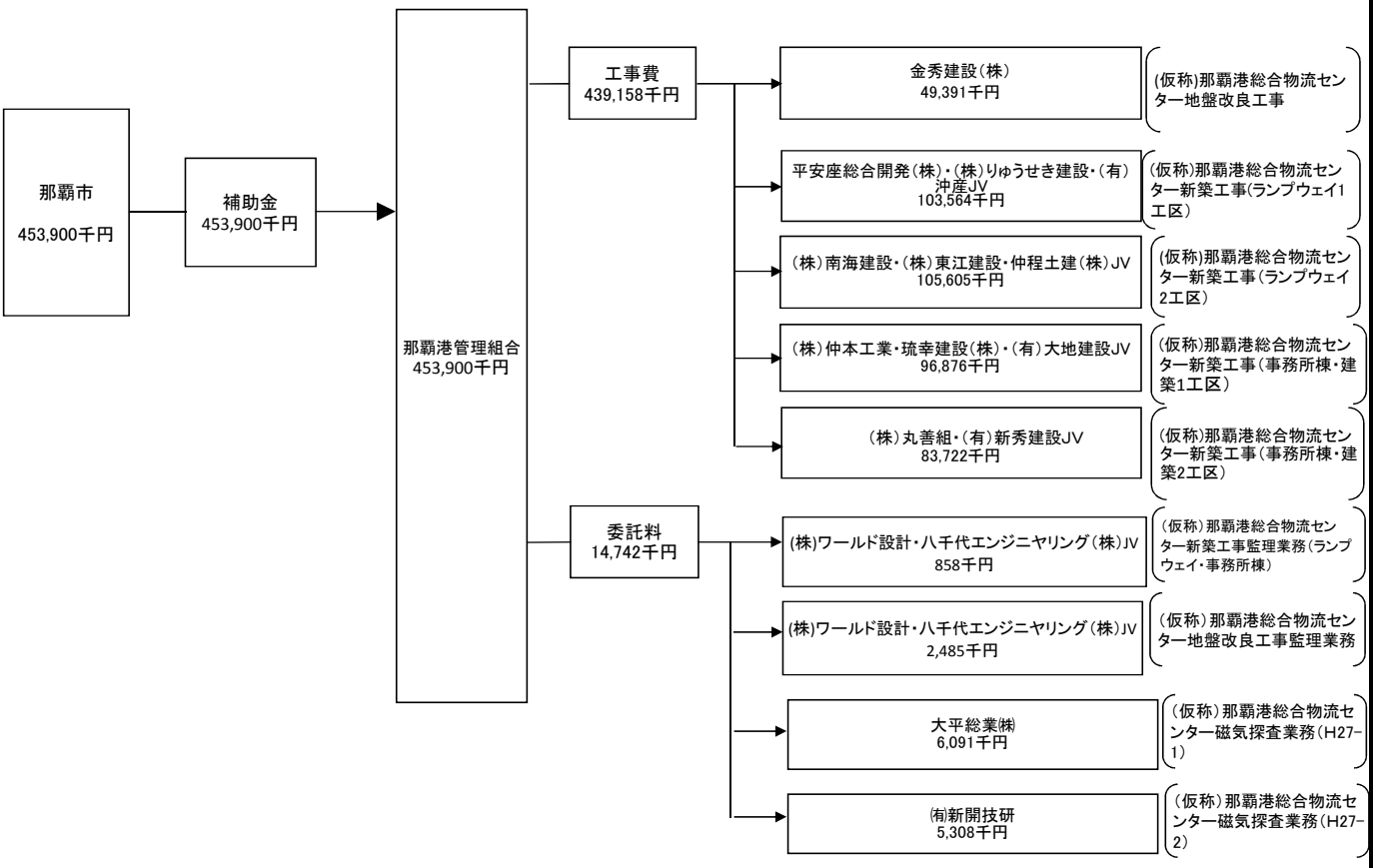
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地中に仮護岸の被覆石と思われる岩塊が広範囲に確認されたため、地盤改良及び杭工事に先立ち、当該岩塊の破砕を行うことが必要となった。 ・今後の工程に遅れが生じないよう、十分な工程管理を行う必要がある。	地中の岩塊の存在等、当初想定していなかった問題点に対し適切な対策を行う事により、工程に遅れが生じないよう取り組みを行う。

今後の取り組み方針

物流センター本体工事の早期発注及び施工上の問題点の確認を早期に行うことにより、平成30年の整備完了に向け鋭意取り組みを進める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
453,900	453,900	363,120	90,780	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・一般競争入札の最低価格業者と契約を結んでいることから、支出先の選定方法は妥当であると考える。 ・設計時において複数の工法から最も経済的な工法を選択していることから、予算規模は事業内容に見合っていると考える。 ・費目、使途については、関連書類を確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-2	臨港道路浦添線無電柱化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(1)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	都市計画部　都市計画課	事業実施（予定）年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(3)

事業内容	那覇港浦添ふ頭地区の臨港道路浦添線において、観光立県沖縄のウォーターフロント景観の向上及び災害に強い安心安全な港まちづくりに向けて、無電柱化を行う。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	－			
	(b) 予算現額	3,000	－			
	(c) 増減額 (b-a)	0	－			
	(d) 繰越額	－	3,000			
	A. 計 (b+d)	3,000	3,000			
B. 執行済額		0	804			
うち交付金充当額		0	642			
次年度繰越額		3,000	－			
執行率（%）(B/A)		0.0%	26.8%			

予算の状況の説明：電線管理者との協定締結に係る調整に不測の日数を要したことから、実施設計業務の着手に遅れが生じたため、年度内完了が困難となり繰越となった。
管路敷設に係る実施設計は別スキームで実施したため、配線計画に係る設計のみとなったための不用である。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
臨港道路浦添線整備における無電柱化事業の着手	目　標	（無電柱化事業の着手）	（　）	（　）	（　）
	実　績	無電柱化事業の着手			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・活動目標通り無電柱化事業を着手した。
・無電柱化事業を実施することにより、観光立県沖縄のウォーターフロント景観の向上及び災害に強い安心安全な港まちづくりを図る。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
実施設計の完了	目　標	（　）	（実施設計の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		設計(配線計画)の完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：本事業は要請者負担方式で実施することから、電線管理者との協定締結に不測の日数を要したが、配線計画に係る設計を完了することができた。
また、管路に係る実施設計については、別スキームにおいて実施済となっているため、配線計画に係る設計のみの完了となった。

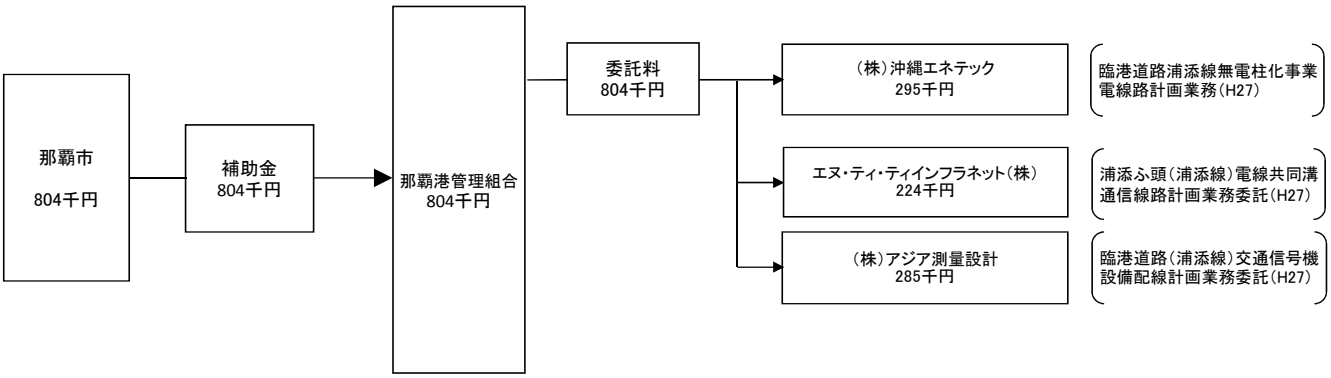
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・電線管理者との協定締結に係る調整に不測の日数を要したことから、設計業務の着手に遅れが生じた。 ・平成31年夏頃に大型商業施設が開業する予定であり、早期に整備する必要がある。 ・臨港道路浦添線は直轄事業で整備しており、工事工程について国と密に調整していく必要がある。	・国や電線管理者と情報共有及び密な調整を行い、徹底した工程管理を行う必要がある。 ・本事業箇所は、未供用路線であり支障となる占用物件がないこと及び需要家への引込設備の敷設が少ないことから、工期の短縮に努める。

今後の取り組み方針

関係機関との情報共有及び密な調整を行い、スケジュールに想定外の事項が生じないか入念に確認し、作業状況及び現場状況等の把握に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
804	804	642	162	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・複数業者からの見積により、最低価格業者と契約を結んでいることから、支出先の選定方法は妥当であると考える。（少額随契） ・当初計上していた実施設計を別スキームで行うこととなったため不用額が発生した。 ・費目、使途については、関連書類を確認し、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-4	活き活き人材育成支援施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（6）－イ 地域づくりを担う人材の育成
担当部課名	生涯学習部　生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成26～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－2、Ⅲ－3－（1）
事業内容	観光産業分野等で活躍できる人材の育成を図るとともに、地域住民と在住外国人との交流、地域づくりやまちづくりの活動を支援するための拠点施設を整備する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	27年度（繰越）	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,161	19,136	－		
	(b) 予算現額	7,161	19,136	－		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	－		
	(d) 繰越額	―	―	19,122		
	A. 計 (b+d)	7,161	19,136	19,122		
	B. 執行済額	7,063	14	15,223		
	うち交付金充当額	5,650	11	12,177		
次年度繰越額		―	19,122	―		
執行率（%）(B/A)		98.6%	0.1%	79.6%		

予算の状況の説明

基本設計において、地域住民等との協議・調整を行う上で、合意形成に不測の日数を要したため、年度内の完了が困難となったため、繰越した。
不用額が3,899千円発生しているが、主な要因は業務委託料の入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	28年度
基本設計の実施（敷地及び立地条件の調査、施設規模、概算工事費の算出及び住民ニーズ調査、運営方法の検討等施設整備に向けた調査実施）	目　標	（基本構想の検討）	（基本設計の実施）	（　）	（　）
	実　績	基本構想の策定	基本設計の完了		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

平成26年度に策定した基本構想をもとに下記項目等の基本設計に取り組んだ。
①基本設計の条件整理として、受講（住民）ニーズの把握及び分析のための市民アンケートの実施、既存の民間事業との棲み分けや連携、講座の運営方法等の検討のため、民間事業者等のヒアリングを行った。
②敷地、立地条件などの調査、建築基準法等の関係法令に照らし合わせ平面、立面などの基本設計図の作成、当該施設の概算工事費の算出等を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
基本設計を実施し、実施設計等に向けた条件整備の完了	目　標	（　）	（基本構想とりまとめ）	（基本設計の実施）	（　）	（　）
	実　績		基本構想策定	基本設計の完了		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

基本設計の条件整理として、市民アンケートの実施や民間事業者等のヒアリング等を踏まえ、運営方法、講座内容、施設規模について検討を行った。
真和志南地区にふさわしい人材育成支援施設の有りかたについて、施設計画に反映させるため、地域勉強会（全6回）を開催した。
地域勉強会（建物づくりワークシュップ）を踏まえ、配置図、平面図等基本設計を取りまとめ、実施設計等に向けた条件整備が可能となった。

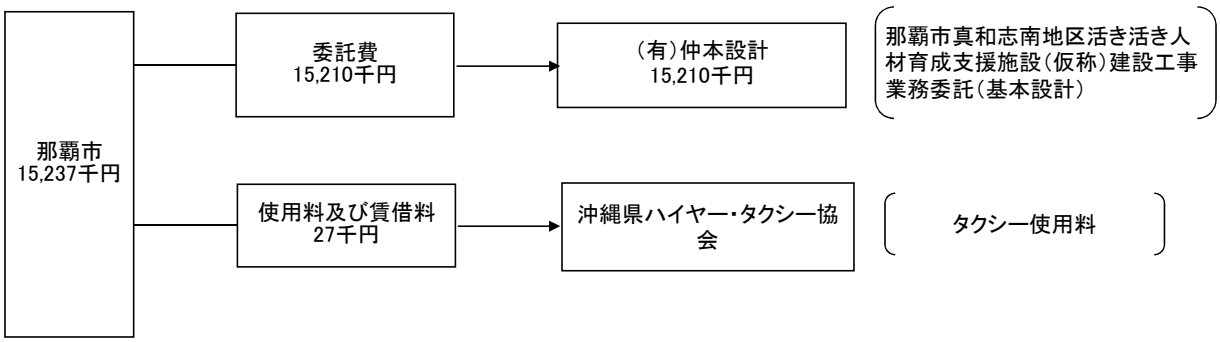
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①基本構想では、語学・観光等に関連する全講座について、施設規模を見積もっていたが、市民アンケートのニーズ等を踏まえ、本施設以外での分散開催することが有効である。 ②民間事業者にヒアリングを実施した結果、実施する講座の類似性や民業圧迫との指摘がある。 ③建設予定地が「第１種低層住居専用地域」で、住環境を害さないことが重要となるため、多数の方々が多く集まる施設については、配慮が求められいる。	基本構想において、施設全体規模として延床面積を約2,100㎡として整理したが、基本設計において、左記①～③を考慮し、施設規模を見直しする必要がある。その結果、延床面積を約1,500㎡へ縮小し、研修室を4室から2室に、ホール、図書室を規模縮小し、必要最低限度の規模に見直しを行った。

今後の取り組み方針

本施設は、観光産業等で活躍できる人材を育成することで沖縄の振興に資する施設であるとともに、地域振興、コミニュティ活性化にも資する人材育成支援施設としての整備を目的としている。今回の基本設計で示した施設規模等に基づいて、実施設計においては、より詳細な設計を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,237	15,237	12,188	3,049	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について、不用額は入札残等であり、適正な規模であったと考えている。 ○費用・使途については、予算執行伺及び完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-8	新文化芸術発信拠点施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ウ 文化活動を支える基盤の整備
担当部課名	市民文化部　文化振興課	事業実施（予定）年度	平成24～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容	沖縄振興に資する文化発信拠点を整備するため、県都である特性を活かした新たな文化の殿堂・沖縄の伝統文化の発信拠点となる新文化芸術発信拠点施設を建設する。本年度は、建設敷地の拡大に向けた補償物件調査等を実施する。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)
予算の状況	(a) 当初予算額	－	87,286	－	55,164	－
	(b) 予算現額	－	31,349	－	17,363	－
	(c) 増減額(b-a)	－	▲ 55,937	－	▲ 37,801	－
	(d) 繰越額	23,760		21,070		8,963
	A. 計(b+d)	23,760	31,349	21,070	17,363	8,963
B. 執行済額		23,760	6,683	21,070	6,847	8,886
うち交付金充当額		19,008	5,346	16,856	5,477	7,109
次年度繰越額		－	21,070	－	8,963	－
執行率（%）(B/A)		100.0%	21.3%	100.0%	39.4%	99.1%
予算の状況の説明		・基本設計候補者を選定する委員会の設置条例の改正や補償物件調査の調整に時間を要し、基本設計業務等及び補償物件調査業務の一部の実施が困難になったために減額した。 ・補償物件調査について、権利者との調査日程調整に日数を要したため次年度に繰り越して完了した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
基本設計業務の実施	目　標	（　基本構想策定　）	（　基本計画策定　）	（　周辺環境整備計画策定　）	（　基本設計　）
	実　績	基本構想策定	基本計画策定	周辺環境整備計画策定	基本設計の候補者選定
補償物件調査業務等の実施	目　標	（　）	（　）	（　）	（　補償物件調査　）
	実　績				補償物件調査

達成状況説明	・基本設計業務については、次年度に行うこととし、公開プレゼンテーション等委員会による審議を経て設計候補者を選定した。 ・補償物件調査業務等においては、建設敷地の拡大に向け、隣接地の土地及び建物の補償費用を9件算定した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
施設建設に向けた実施設計に反映させるための基本設計の実施	目　標	（　）	（　基本計画策定　）	（　周辺環境整備計画策定　）	（　基本設計　）	（　）
	実　績		基本計画策定 周辺環境調査	周辺環境整備計画策定	基本設計の候補者選定	
建設敷地の拡大に向けた隣接地の土地及び建物の補償費用の算定	目　標	（　）	（　）	（　）	（　補償物件調査　）	（　）
	実　績				補償物件調査	

進捗状況説明	・基本設計の候補者を選定し、基本設計を行なう準備が整った。 ・建設敷地の拡大に向け、隣接地の土地及び建物について、用地交渉に必要な資料を整備した。

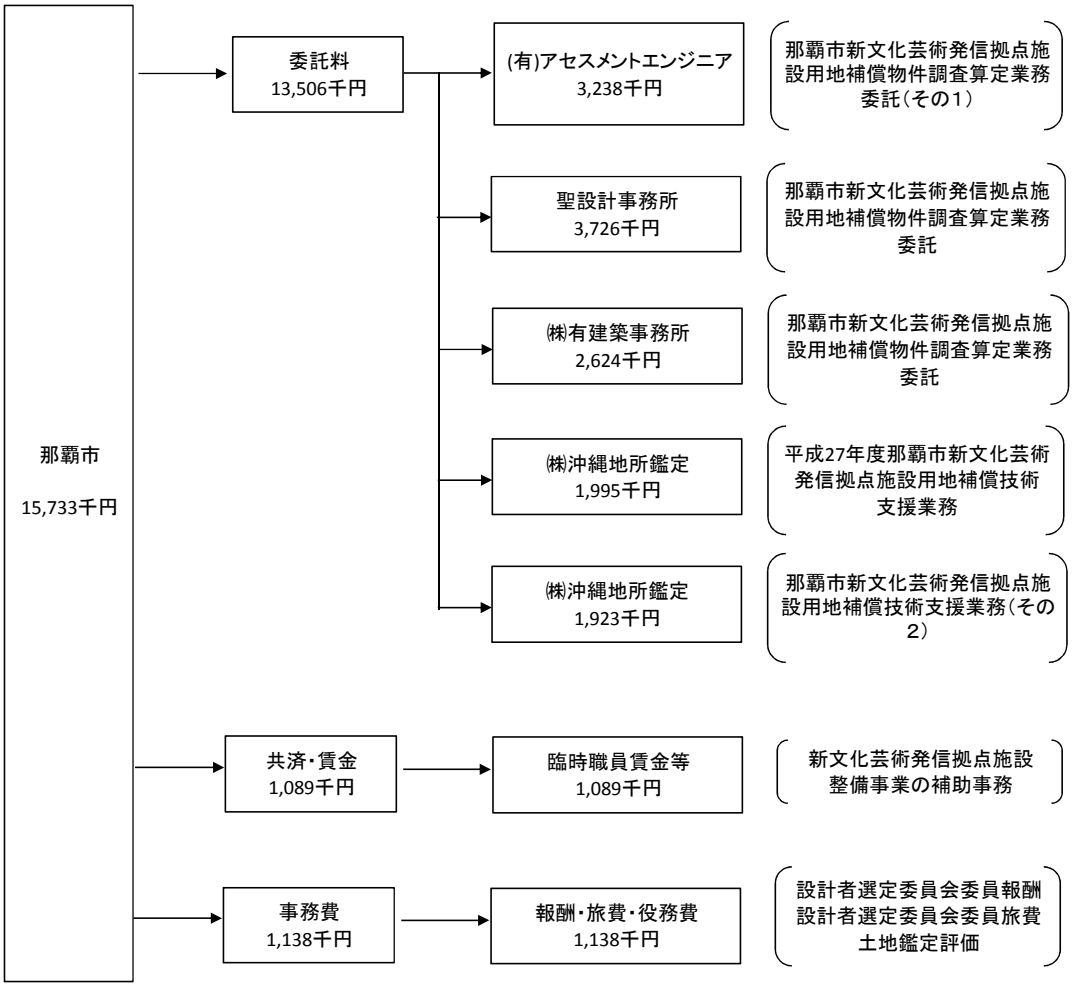
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今後は、選定された設計候補者と連携して基本設計業務に取り組む。 ・建設敷地拡大に向けた補償物件調査については、権利者との調査日程の調整に当初の見込みより日数を要している。	・基本設計業務については、利用者の意見を取り込むことで、より親しみをもって利用される施設となる。 ・隣接地の未調査物件については、事業スケジュールを見据えながら引き続き調査に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・基本設計業務については、市民ワークショップや関係団体のヒアリング等を通じて、利用者の意見を設計に反映しながら取り組む。
・敷地拡大に向けた補償物件調査について、調査済み物件については権利者の意向確認を進めるとともに、未調査物件については、引き続き事業内容を丁寧に説明して調査に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,733	15,733	12,586	3,147	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者の選定は、競争入札で実施しており妥当であったと考えている。 ○予算規模については、概ね満額執行しており、適正であったと考えている。 ○費目・使途についても、仕様書に則して事業目的を達成しており適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	14-1	地下壕対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	建設管理部　建設企画課	事業実施（予定）年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-12
事業内容	沖縄の抱える様々な特殊事情（地下壕）に対応するため、陥没、落盤等による建築物等の危険度軽減を目的とした壕の埋戻等を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度	27年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	―	30,200	―	10,144	―
	(b) 予算現額	―	17,022	―	10,144	―
	(c) 増減額 (b-a)	―	▲ 13,178	―	0	―
	(d) 繰越額	11,755	―	9,811	―	6,044
	A. 計 (b+d)	11,755	17,022	9,811	10,144	6,044
	B. 執行済額	11,755	7,211	4,320	4,100	2,332
	うち交付金充当額	9,404	5,769	3,456	3,280	1,865
次年度繰越額		-	9,811	-	6,044	-
執行率（%）(B/A)		100.0%	42.4%	44.0%	40.4%	38.6%
予算の状況の説明		平成27年度で実施予定の地下壕対策埋戻工事の一般競争が不調になったことから繰越したものであり、また、埋戻工事を予定していた地下壕一部がお墓として利用されており対策不可となったこと、又別の地下壕において土地の管理者にて安全対策が実施されることから、(埋戻)工事が不可能になったため不用となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
地下壕の埋戻等の実施：4箇所	目　標	危険度判定及び優先度等提案（　）	地下壕の埋戻等の実施6箇所（　）	地下壕の埋戻等の実施4箇所（　）	地下壕の埋戻等の実施4箇所（　）
	実　績	危険度判定及び優先度等提案	地下壕の埋戻等の実施6箇所	地下壕の埋戻等の実施3箇所	地下壕の埋戻等の実施2箇所
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

平成27年度は地下壕対策予定箇所において、対策調査測量設計及び埋戻工事を実施した。計画では4箇所の予定であったが、2箇所の実施となった。実施が2箇所となった原因として、当初予定していた地下壕の一部がお墓として利用されており対策不可となったこと、又別の地下壕において土地の管理者にて安全対策が実施されることから、対策については現時点では対策が不用となったためである。
〈対策の内容〉
繁多川2箇所⇒空隙充填

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
全体箇所数60箇所のうち、H27年度末までに12箇所において対策実施予定。（全体箇所に対するH27年度末までの進捗率20%）	目　標	（　）	（6箇所 10%）	（4箇所 6%）	（4箇所 6%）	（　）
	実　績		6箇所 10%	3箇所 5%	2箇所 3%	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

那覇市内に現存する地下壕において、平成27年度は地下壕2箇所において対策を完了し、平成25年度からの実績の合計は11箇所となった。
その結果、陥没、落盤等による建築物等の危険度軽減を図ることができた（全体60箇所に対する実施率18%）。
成果目標の進捗率20%に対して、実績進捗率が18%となった原因としては、土地所有者などの意向等により対策が出来ないなどの理由である。

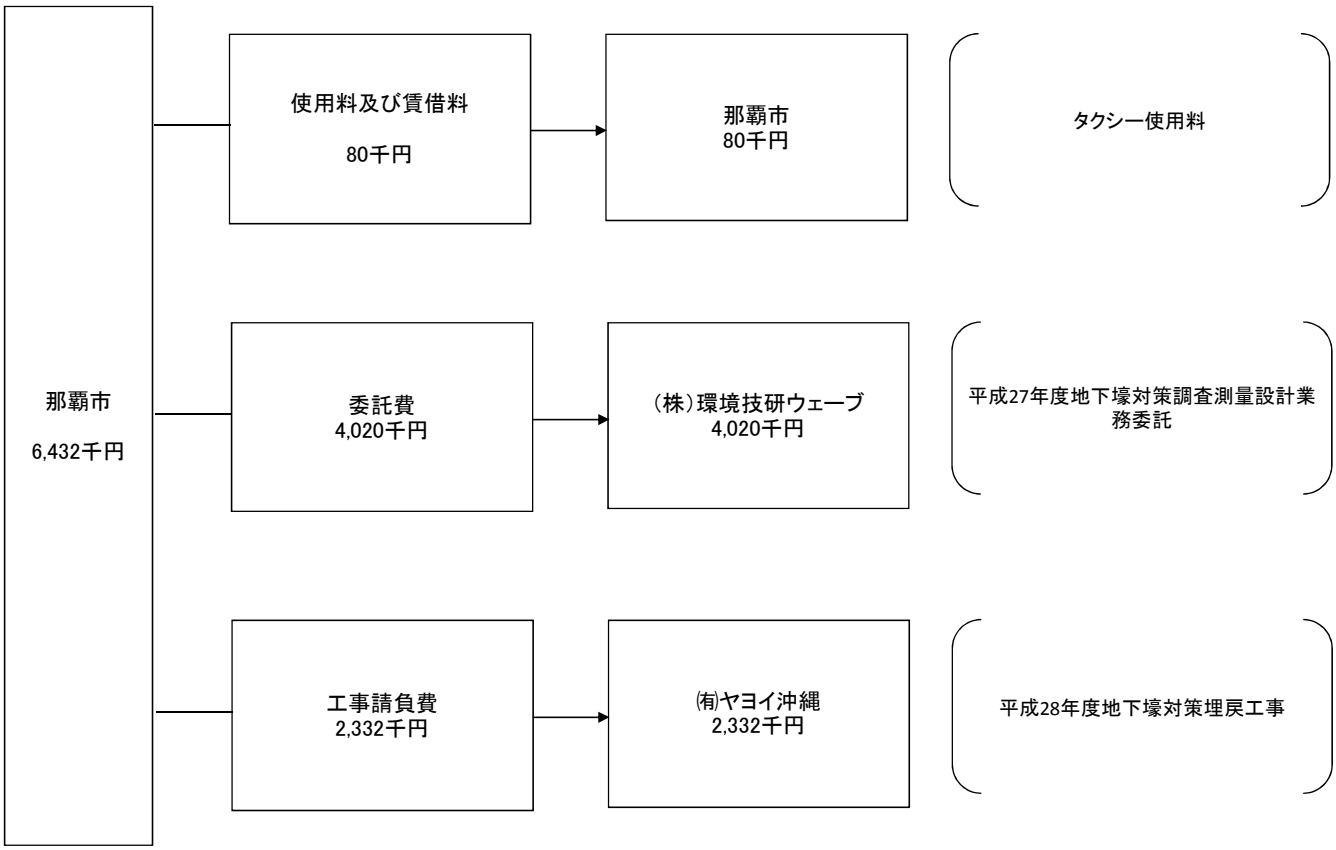
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・壕の埋戻工事について、土地所有者の同意や自治会等の関係機関との調整に不測の時間を要する。 ・地下壕を拝所等に利用している箇所において、土地所有者からの同意が得られないため、安全対策が実施出来ないケースが発生している。	・土地所有者や自治会等へのヒアリングを行い、土地所有者及び関係権利者の意向を踏まえた対策工（拝所の機能を損なわないような対策等）を選定できるよう調整を進めることにより、事業の推進を図る。 ・壕の周辺住民等へのヒアリングや関係者・関係部署との連携を強化することにより、より確実な状況把握に努める。 ・地下壕を埋め戻し等を行う際には、土地所有者等に危険度軽減について説明して実施している。それでも、埋め戻し等を希望されない土地所有者等には、危険性を十分理解して地下壕を使用するよう説明する。

今後の取り組み方針

平成24年度より地下壕対策事業を実施しており、未対策地下壕においては拝所等の利用などにより土地所有者からの同意に時間を要することが想定される。
そのため、次年度においては未対策地下壕において意向調査を実施し、同意までに要する時間的問題を改善し、事業の推進を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,432	6,432	5,145	1,287	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者は競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について、不用額は入札残等であり、適正であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであり適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市

平成２７年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	14-2	戦略的交通まちづくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（7）－ウ 人に優しい交通手段の確保
担当部課名	都市計画部　都市計画課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－12
事業内容	沖縄の抱える様々な特殊事情（鉄軌道等整備の遅れ）に対応するため、公共交通機関利用についての意識啓発ｲﾍﾞﾝﾄなど、市内交通環境再構築に向けた事業を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	27年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	―	13,500	3,500	8,100	
	(b) 予算現額	―	13,500	3,500	8,100	
	(c) 増減額 (b-a)	―	0	0	0	-
	(d) 繰越額	18,710	―	―	―	5,076
	A. 計 (b+d)	18,710	13,500	3,500	8,100	5,076
	B. 執行済額	18,688	13,252	2,809	2,922	5,076
	うち交付金充当額	14,950	10,601	2,247	2,337	4,061
次年度繰越額		-	―	―	5,076	―
執行率（%）（B/A）		99.9%	98.2%	80.3%	36.1%	100.0%
予算の状況の説明		市内交通環境再構築に向けた基礎調査（LRT導入可能性検討）を行う中で、関係機関（事業者等）へ資料収集、取りまとめ等に不測の日数を要したことから、年度内の完了が困難となったため、5，076千円をH28年度に繰越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・公共交通ハンドブック（12，000部）の作成・配布	目　標	（　）	（　）	（　）	（　実施　）
	実　績				実施
・なはモビリティウィーク＆カーフリーデーの委託発注	目　標	（　イベント実施　）	（　イベント実施　）	（　イベント実施　）	（　委託発注　）
	実　績	イベント実施	イベント実施	イベント実施	委託発注済み
・LRT 導入の検討	目　標	（　）	（　）	（　）	（　実施　）
	実　績				実施

達成状況説明

・市内交通環境再構築に向けた事業として、交通課題（慢性的な交通渋滞等）を解決するために、公共交通利用についての意識啓発ｲﾍﾞﾝﾄのカーフリーデーイベントや那覇市公共交通ハンドブックの作成、市内のLRT導入可能性検討について委託発注を行い、本市が目指す「誰もが移動しやすいまちつくり」の実現に向け取組んだ。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
・カーフリーデーの実施意義への理解80%以上の継続 9/16～22日の1週間、なはモビリティウィーク＆カーフリーデーを開催し、車に頼りすぎない暮らしの社会啓発を行う	目　標	（　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　）
	実　績		実施	実施	実施	
・公共交通ハンドブックを作成し市内転入者へ配布することで、公共交通の利用を促す。	目　標	（　―　）	（　―　）	（　―　）	（　実施　）	（　）
	実　績		―	―	実施	
・LRT導入の検討 市内においてLRT導入に向けた課題及び影響の内容を把握する。	目　標	（　）	（　―　）	（　―　）	（　実施　）	（　）
	実　績		―	―	実施	

進捗状況説明

・カーフリーデーの実施意義への理解80%以上の継続することができた。（今年度は約85%に賛同いただいた。）
・車から公共交通等への利用転換（交通に対する意識改革）等を図るために、公共交通ハンドブックを作成し市内への転入者へ配布した。
・公共交通等の利便性向上などに繋がる調査となるLRT導入可能性の検討において、現状の交通に関する課題などを整理した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・那覇市は、空港及び港湾を擁し、沖縄本島の幹線道路網及び公共交通網の要衝となっているため、周辺市町村からの交通が集中しているのと同時に、自家用車に頼り過ぎた車社会の現状から、渋滞や公共交通の衰退等の問題を抱えている。 ・渋滞や公共交通の衰退等の問題を改善するために自家用車の利用を減らし、バスやモノレールなどの公共交通機関の利用者の増加に繋がる施策や、新たな公共交通の導入可能性の基礎調査などを実施し市内交通環境再構築に向けて取り組んだ。	・自動車保有率は年々増加傾向にあることから、公共交通機関の利用者を増加させるため、公共交通の利便性向上等に取り組む。

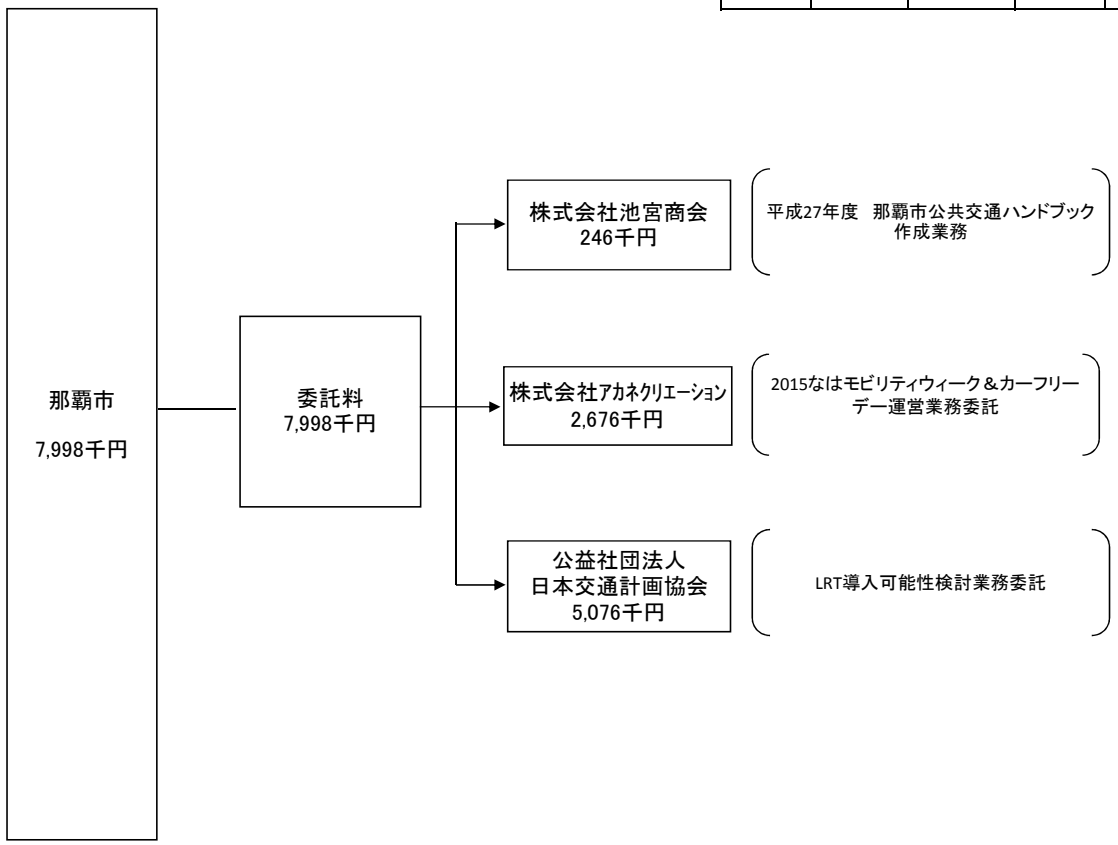
今後の取り組み方針

・カーフリーデーイベント等において、充実したイベントを実施することで、自家用車から公共交通への利用転換を促すことに取り組む。

・現時点では便利な車を利用する市民等が多くいることから、継続して意識啓発（カーフリーデーイベント）や基礎調査（公共交通等の利便性向上のため）を実施することで、自家用車から公共交通への利用転換を促し、慢性的な交通渋滞の緩和を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,998	7,998	6,398	1,600	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札で、事業を実施したため契約業者・契約金額は妥当であったと考えている。 ○予算規模については、今年度の実施内容を整理し、見積を3社徴取しているため適切な積算を行ったと考えている。 ○随意契約も地方自治法施行令第167条の2第1項第2号及び那覇市契約規則に則り実施したため妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	